

保証書

| | | | |
|---------|------------------|-----|-----------|
| 商品名 | evenflo チャイルドシート | 機種名 | トリビュート LX |
| お買上げ年月日 | | | |
| お客様 | ご住所 (〒) | | |
| | お名前 | | |
| | (TEL) | | |
| 保証期間 | お買上げ日より1年間 | | |
| 販売店 | ご住所 (〒) | | |
| | お名前 | | |
| | (TEL) | | |

品質保障期間は、お買上げ日より1年間です。

お買上げ後、商品名、本体No.、購入年月日、お客様名、販売店名をただちにご記入ください。

万一故障が生じた場合は、この保証書と同時に本製品の取扱説明書をご提示ください。

本書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。

保証基準

- このチャイルドシートの品質保証期間は、お買上げ日より1年間です。
- 保証期間内は、パーツの欠品、不良加工等メーカーの責任によるものは無償修理を致しますが、お客様の責任によるものは実費修理と致します。
- 一度ご使用になったものは、原則として商品のお取り替えは出来ません。
- 次の項目は無料サービスから除外されます。
 - ・フレームの自然劣化
 - ・シート等のキズや破れ
 - ・間違った使い方や、手入れ不良によるもの
 - ・使用者の造作変更によるもの
 - ・災害、事故等によるもの
 - ・実費修理に要する運賃等の諸経費
 - ・その他、消耗品
- 本保証書は、日本国内においてのみ有効です。
- 製品についての各種お問合せは、お求めの店または、発売元に直接ご連絡ください。

TRISTAR

evenflo evenflo事業部

トライスターインターナショナル株式会社

〒141-0031 品川区西五反田7-1-9 五反田HSビル

TEL.03-3779-5131(代) FAX.03-3779-2051(代)

E-mail : evenflo@tristar.co.jp

URL : <http://www.evenflo.jp>

190215

evenflo.

イーブンフロー チャイルドシート

取扱説明書

このたびはイーブンフロー製品をお買い上げ頂き、誠に有難うございます。イーブンフローのチャイルドシートは全て、デザイン、設計の段階より、実際に子供を車の座席に座らせて、いろいろな事態を想定し、防護の点は勿論ですが、座り心地の点についても心を配りました。そして、私たちは子供の身になって、旅がいつも楽しいものとなるよう設計いたしております。それが、イーブンフロー製品がアメリカで、そして世界で広く皆様に愛され、高い市場占有率を誇る理由です。

Tribute™ LX

トリビュート LX



| | |
|------------------------------|----|
| はじめに..... | 1 |
| 危険..... | 1 |
| 警告..... | 1 |
| 注意..... | 2 |
| 本製品の各部の名称..... | 3 |
| シートベルトの種類と本製品の取付け注意点..... | 4 |
| ロックングクリップの使用..... | 5 |
| チャイルドシートの調節..... | 6 |
| チャイルドシートの取付方法..... | 6 |
| 1.乳児に使用する場合(後向き取付けの場合)..... | 6 |
| 2.幼児に使用する場合(前向き取付けの場合)..... | 8 |
| 米国基準ラッチシステムを使用する際の取付け方法..... | 9 |
| 米国基準テザー仕様に関して..... | 10 |
| 肩ベルト及び股ベルトの調節..... | 11 |
| ドリンクホルダーの使用..... | 13 |
| 乳幼児用サポートパッドと枕の利用..... | 14 |
| 旅客機での使用について..... | 14 |
| お手入れ方法..... | 14 |

- ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読み頂き、説明にしたがって正しくお使いください。尚、お読みになられた後もこの取扱説明書を車検証と一緒に大切に保管し、必要に応じて使用法をご確認ください。
- このチャイルドシートを他の方にお譲りになる場合は、必ず本書もあわせてお渡してください。

はじめに

本製品はアメリカ自動車安全基準(FMVSS213)に適合しています。しかし、本製品を使えばどのような事故でも負傷や死亡の危険を避けられるというものではありません。交通事故等の場合にお子様の障害を軽減することを目的としており、必ずしも事故からお子様を無傷で守るものではありません。慎重な運転をつねに心掛け、車のオーナーズマニュアルや以下の事項をよくお読みになり本製品の正しい使用をお薦めいたします。

適切な使用方法に従わない場合、重傷事故につながる可能性があります。

● 危険 ●

- 走行中は、お子様をシートから出したり、おしめの取り替え等の世話をしないで下さい。
- 走行中は、お子様を立たせたり、中腰、正座状態で使用しないで下さい。
- お子様を車内に1人にしないで下さい。脱水症状やベルトが首に巻きつく恐れ等予期せぬ事故のもととなります。必ず保護者が同乗してチャイルドシートを使用して下さい。
- チャイルドシート使用中、お子様にバックルやボタン類を触らせないで下さい。
- チャイルドシートが取扱説明書通りに確実に固定できない座席では絶対に使用しないで下さい。
- チャイルドシートのバックルをはずして使用しないで下さい。
- 車のベルト巻き取り装置のロックが、かからない状態での使用はしないで下さい。
- エアバック付きの座席および後向きや横向きの座席への取付けはたいへん危険ですので絶対に使用しないで下さい。チャイルドシート使用中、エアバックが作動すると重傷事故や致死事故につながる可能性があります。

● 警告 ●

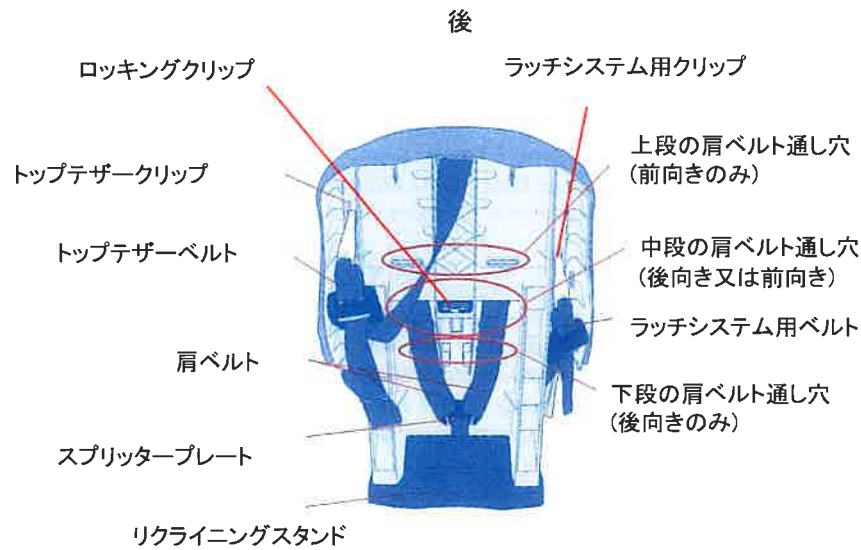
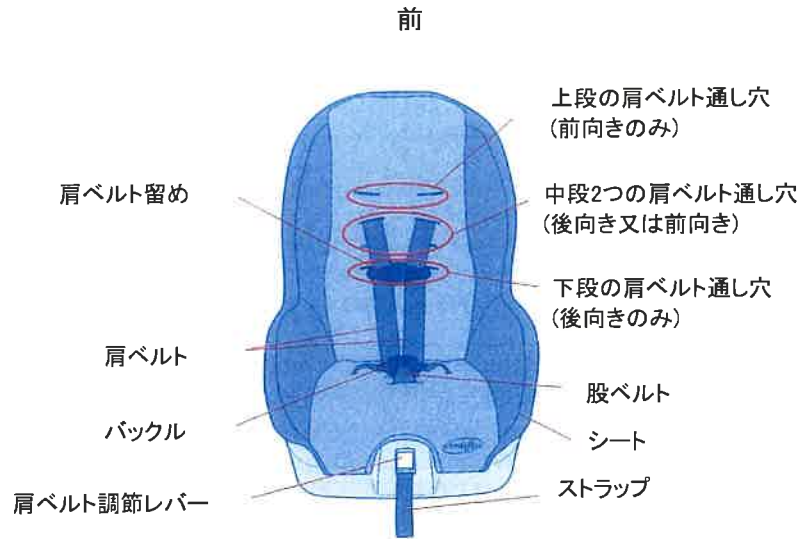
- チャイルドシートを直射日光や炎天下にさらさないで下さい(特に駐車時)。やむをえず直射日光や炎天下に駐車する場合は、チャイルドシートの金属部分(バックル等)が加熱する恐れがありますので、タオル等でチャイルドシートを覆って加熱を防いで下さい。子供を座らせる前に必ずチャイルドシートの布と金属のバックルが熱くないか確認して下さい。
- チャイルドシートが自動車衝突事故等により強い衝撃を受けた場合、目立った損傷がなくても危険ですので必ず使用を中止して下さい。新しいチャイルドシートの購入をお薦めします。
- 車に取付けるときは必ず車のシートベルトで固定し、ひも等シートベルト以外のものでは固定しないで下さい。
- お子様が乗っていない時でも、チャイルドシートは車のシートベルトで必ず緩みのないようしっかり固定しておいて下さい。急ブレーキや衝突時の衝撃で移動することがあり、たいへん危険です。
- チャイルドシートの肩ベルトは、お子様の肩以外の位置で使用しないで下さい。
- チャイルドシートは一人用です。二人以上で使用しないで下さい。
- 車およびチャイルドシートの肩ベルト、腰ベルト、股ベルトは、ねじれ、緩みのないように着用させて下さい。
- ドリンクホルダーには、熱い飲み物等を置かないで下さい。こぼれて火傷する原因となります。

- 2ドア、3ドア車及び1ボックス車等、乗降時に通路や邪魔になる座席にチャイルドシートを取付けしないで下さい。
- 車を走行中にチャイルドシートの操作(ベルト調節、リクライニング操作等)を行わないで下さい。
- チャイルドシートの肩ベルト、腰ベルト、股ベルトに傷、損傷、亀裂等がある場合、使用しないで下さい。
- ご使用前に必ず車のシートベルトをチェックして下さい。本製品は、車のシートベルトが正しくしっかりと締まる場合にだけ使用して下さい。
- 車の座席が皮仕様の場合には、直接取り付けしないで下さい。
(皮シートが、損傷を受けないようチャイルドシート台座全体に敷物等を用意して下さい)
- お子様にチャイルドシートの取付けや操作をさせないで下さい。
- チャイルドシートのクッションがやぶれた状態で使用しないで下さい。
- チャイルドシートを火の近くや、炎天下の車中に放置しないで下さい。
(樹脂が変形し性能を維持出来なくなります)
- チャイルドシートのバックルや金属部分に水やジュース等をかけないで下さい。
- ネジやナットが緩んだり脱落していないことを確認して下さい。
- チャイルドシートのシートカバーを外しての使用はしないで下さい。
- 自動シートベルト(パッシブシートベルト:座席に座りドアを閉めると自動的にシートベルトが出てくるタイプ)の車の座席では使用しないで下さい。
- 車の座席の背もたれが固定されている状態で使用して下さい。

● 注意 ●

- チャイルドシートを取付けた後、定期的にシートベルト等にゆるみがないか確認して下さい。
- 車のヘッドレストを一番低い位置まで下げて下さい。
- 窮屈にならないようにと、シートベルトを緩めたりしないで下さい。お子様の安全が守られなくなる恐れがあります。
- バケットタイプのシートや特殊なレース用シート等、改造されたシートでは使用しないで下さい。
- 折畳み式アームレストが付いている座席での使用は避けて下さい。衝突時にアームレストが動いて子供の重傷または致死事故につながる可能性があります。
- ロッキングクリップはチャイルドシートの固定以外には使用しないで下さい。
- チャイルドシートを子供の遊び道具として使用しないで下さい。
- チャイルドシートを保護者、介護者等が椅子等腰掛として使用しないで下さい。
- チャイルドシートを屋外に放置し雨等にさらした後の使用はしないで下さい。
- 本製品の分解・組立・改造は一切しないで下さい。
- 本製品はチャイルドシートとしての目的以外での使用はしないで下さい。
- お子様が未熟児の場合、座った状態では呼吸が困難になる場合があります。その様な場合は直ちに本製品の使用を止め、かかりつけの医師にご相談下さい。
- 事故統計では、後部座席で適切なチャイルドシートに座った子供が最も安全だという結果がでています。一般的に、後部中央座席位置が最も安全だとされています。出来るだけ後部中央座席位置でご使用下さい。

本製品の各部の名称



シートベルトの種類と本製品の取付け注意点

| シートベルトの種類 | 特 徴 | ⚠ 本製品の取付け注意点 |
|--|---|---|
| ELR(緊急ロックベルト巻取装置)付3点式シートベルト | ELR付シートベルトとは、ベルトをゆっくり引きだせば自由に入出力するが、急に引き出したり、急ブレーキ等のショックを与えるとロックされるシートベルト。自動車の3点式シートベルトのほとんどにELRが使われています。 | 走行中シートベルトが緩み、本製品がずれる危険があります。肩・腰連続ベルトタイプには必ずロックングクリップをご使用ください(P5「ロックングクリップの使用法」参照)。腰ベルト側にELRが付いた座席には、取付けしないで下さい。 |
| ELR付2点式シートベルト | 肩ベルトがないELR付腰ベルト。 | 本製品を固定することが出来ないので、取付けしないで下さい。 |
| ALR(自動ロック式ベルト巻取装置)付2点式、3点式シートベルト | シートベルトを引き出す途中で手を止めるとベルトが自動ロックされ、それ以上引き出せない。 | 本製品を固定するのに必要な長さのシートベルトを一気に引き出して固定して下さい。 |
| ELR・ALR付3点式シートベルト(チャイルドシート固定機能付シートベルト) | 通常はELRの機能だが、シートベルトを全量引き出すとALRの機能に切り替わるシートベルト。 | 本製品を固定するとき、必ずシートベルトを全部引き出してALR機能に切り替えてから固定して下さい。 |
| NLR(非ロック式ベルト巻取装置)付2点式、3点式シートベルト | ロック機能がなく、シートベルトを全量引き出し、長さ調節して使用する。 | 巻取装置からシートベルトを全量引き出し、本製品に合わせてシートベルトの長さを調節し固定して下さい。必要に応じてロックングクリップを使用して下さい。 |
| マニュアル式3点式シートベルト | 巻取装置のない3点式シートベルト。 | 本製品に合わせてシートベルトの長さを調節し固定して下さい。必要に応じてロックングクリップを使用して下さい。 |
| マニュアル式2点式シートベルト | 巻取装置のない2点式シートベルト。 | |

※本製品は必ずロックするシートベルトのついた座席に取付けて下さい。

上記車のシートベルトの種類は、車に備付けのマニュアルをご覧になるか、カーディーラーにご相談下さい。

※シートベルトが座席の中間から出ている場合やチャイルドシートのシートベルト通し穴位置よりも前方向からシートベルトが出ている座席では、使用しないで下さい。

ロッキングクリップの使用方法

ロッキングクリップは各チャイルドシート本体に付属しています。
このロッキングクリップは、チャイルドシートの固定やシートベルトのたるみによるガタツキを押さえる為の重要なものです。

- ①本製品の取付け方法に従って車のシートベルトをチャイルドシートに通し、車の差し込みバックルを「カチッ」と音がするまで差し込みます。
- ②車のシートベルトの腰の部分(腰ベルト)にたるみが残らないように、肩の部分(肩ベルト)を一杯に上に引きます。これで、腰ベルト部分によりチャイルドシートが後部座席に押さえ付けられるようになります。
- ③上記②で確認した位置がズレない様にしてバックルをいったん外し、肩ベルトと腰ベルトを重ね合わせてロッキングクリップを片方の溝に通し、その後もう一方の溝に通します(図-2)。
- ④ロッキングクリップを差し込みバックルから13mm以内のところで留めます(図-3)。

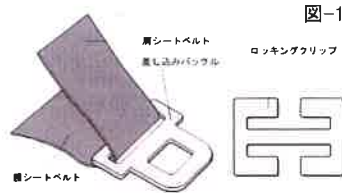


図-1

図-2

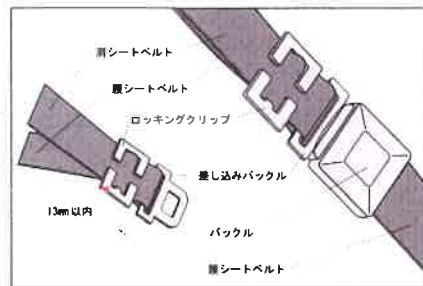
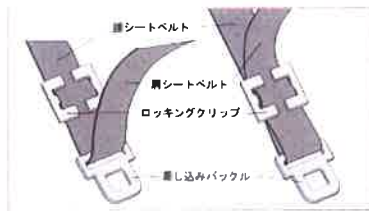


図-3

- ⑤いったん外した車のシートベルトの差し込みバックルを「カチッ」と音がするまで差し込み、チャイルドシートがしっかり固定され、全てのベルトがきつく締まっていることを確認して下さい(図-4)。

※ロッキングクリップの取付け位置は、図-4の位置が正しい位置です。

※使用前にロッキングクリップが、正しい位置に固定されていることを、必ず確認して下さい。

※チャイルドシートを取付けた後、定期的にゆるみがないか確認して下さい。



図-4

チャイルドシートの調節

このチャイルドシートは2段階のリクライニング調節が出来ます(図-5)。

- (A)直立させる
- (B)リクライニングスタンド
- (C)リクライニングさせる



図-5

チャイルドシートの取付方法

1. 乳児に使用する場合(後向きで取付けて下さい。)
体重2.3~18kgまで、身長48~94cmまでの乳児用。(参考年齢: 新生児~3才位まで)
頭がグラグラと動かない様に巻いたタオル等を頭の両側に置くなどしてサポートしてください。
※ 約2才までは後向きで使用することが推奨されております。

- (1)最初に、肩ベルトの下端か中段2つの肩ベルト通し穴(A)のいずれかに肩ベルトを通して下さい(図-6)。後向きの場合、肩ベルトは乳児の肩の高さ又はそれより低い位置(B)になるようにして下さい。股ベルトは2段階に調節できます。次に、チャイルドシートのリクライニングスタンドを図-5の(C)の位置にセットして下さい。



図-6

※肩ベルト及び股ベルト調節については、「肩ベルト及び股ベルトの調節」の項(P11)を参照して下さい。

チャイルドシートを車の後部座席に後向きに設置し、車のシートベルトを後向き専用ベルト通し穴(側面下部)から本体とシートカバーの間にねじれない様に通して、差し込みバックルを「カチッ」と音がするまでバックルに差し込んで下さい(図-7)。

シートベルトを適切に取付けられていない場合、チャイルドシートは衝突時に子供を保護出来ないことがあります。
車のシートベルトは出来るだけきつく締めて下さい。

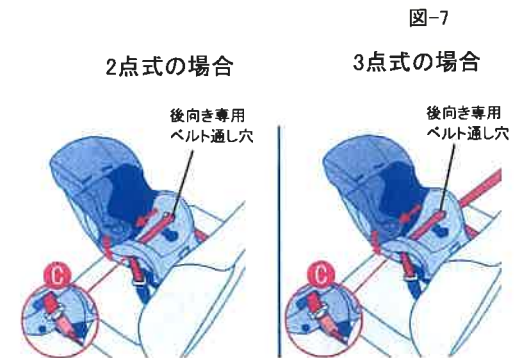


図-7

(2) ELR付3点式シートベルトの場合、必ずロックングクリップを取付けて下さい(P5参照)。

(3)車のシートベルトをチャイルドシートの適切な位置に付けることは大変重要です。車のシートベルトの位置が適切でないと、衝突時にチャイルドシートが子供を保護出来ない場合があります。

車のシートベルトは出来るだけきつく締めて下さい。チャイルドシートの底部が進行方向に引いて2.5cm以上、横に5cm以上動く場合は、車のシートベルトがゆるすぎるのでしっかり締め直して下さい(図-8)。

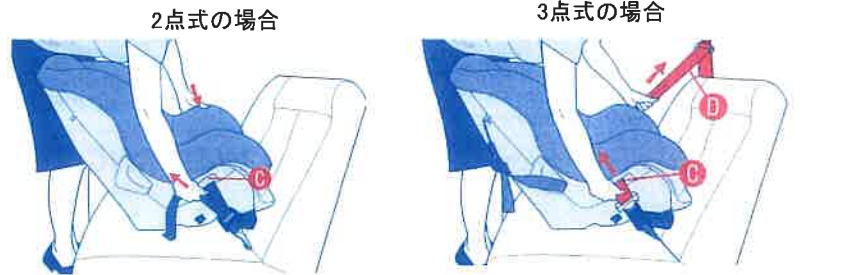


図-8

乳児は必ず後向きで使用しなければなりません。衝突時にチャイルドシートの背もたれが乳児を保護し衝撃を吸収します(図-9)。



図-9

(4)車によっては、固く巻いたタオルか小さな毛布等(B)をチャイルドシートの前端の下に敷き、チャイルドシートの背もたれ部分と車の床部との角度が45度になるように調節して下さい。但し、取付けの際には不安定にならないようしっかり固定して下さい(図-10)。

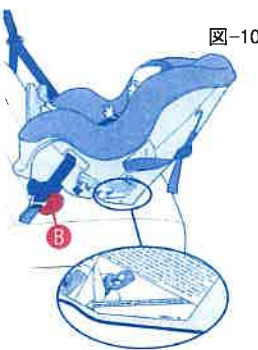


図-10

後向きでチャイルドシートを使用する場合、背もたれの適切な角度は、図-10の拡大図にある矢印が地面と平行になるようにチャイルドシートを設置すると適切な角度になります。

(5)乳児をチャイルドシートに乗せ、子供のお尻と背中がクッションに密着するようにします。隙間があると座り心地が悪くなるので充分注意して下さい(図-11)。

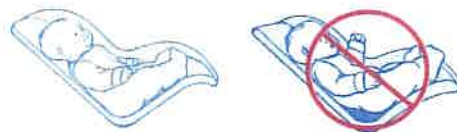


図-11

注意:

生後5か月位までの赤ちゃんには、巻いたタオル等を頭の両側に置くと、さらにサポートが得られます。頭がぐらぐら動いたりしないようにして下さい。乳児は出来るだけ長い期間後向き位置で使用することをお勧めします。

2. 幼児に使用する場合(前向きで取付けて下さい。)

体重10~18kgまで、身長71~102cmまでの幼児用。(参考年齢:1~4才位まで)

※ 約2才までは後向きで使用することが推奨されております。

(1)最初に、肩ベルトを中段2つか上段の肩ベルト通し穴(A)のいずれかに通します(図-12)。前向きの場合、肩ベルトは幼児の肩の高さ又はそれより高い位置(B)になるようにして下さい。股ベルトは2段階に調節できます。次に、チャイルドシートのリクライニングスタンドを図-5の(A)の位置にセットして下さい。



図-12

※肩ベルト及び股ベルト調節については、「肩ベルト及び股ベルトの調節」の項(P11)を参照して下さい。

(2)チャイルドシートを車の後部座席に前向きに設置し、車のシートベルトを前向き専用ベルト通し穴(側面中央)にねじれない様に通して、差し込みバックルを「カチッ」と音がするまでバックルに差し込んで下さい(図-13)。

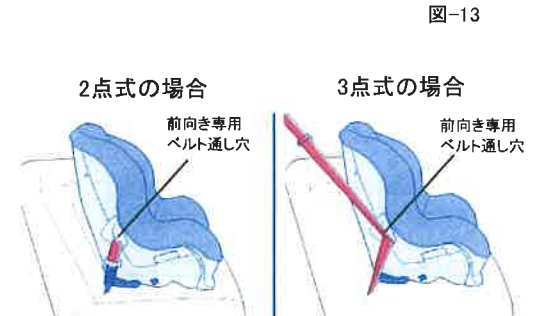


図-13

(3) ELR付3点式シートベルトの場合、必ずロックングクリップを取付けて下さい(P5参照)。

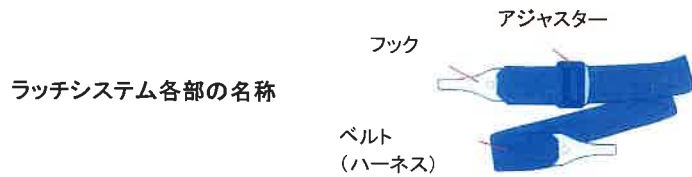
(4)車のシートベルトをチャイルドシートの適切な位置に付けることは大変重要です。車のシートベルトの位置が適切でないと、衝突時にチャイルドシートが子供を保護出来ない場合があります。車のシートベルトは出来るだけきつく締めて下さい。膝を使って、全体重をチャイルドシートにかけながら、シートベルトをきつく締めて下さい。チャイルドシートの底部が進行方向に引いて2.5cm以上、横に5cm以上動く場合は、車のシートベルトがゆるすぎるのでしっかり締め直して下さい(図-14)。



図-14

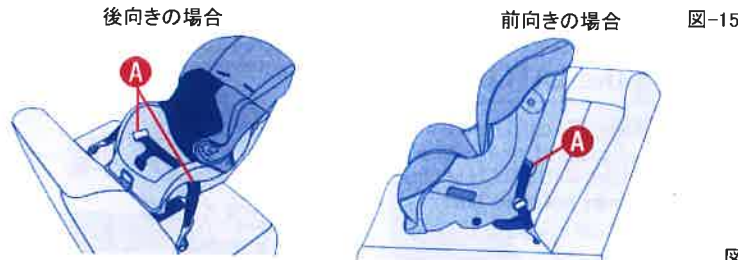
米国基準ラッチシステムを使用しての取付け方法

(ISOFIXバーが装備されていない車へは使用出来ません。 ISOFIXバーの装備の有無及び装備場所に関しましては、お車の取扱説明書を御覧頂くか、カーディーラーへお問合せ下さい。)

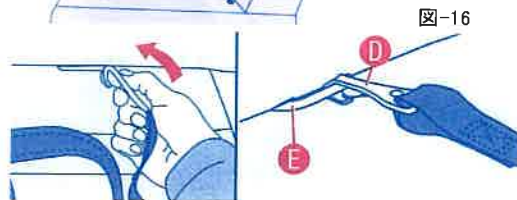


※ ラッチシステムを使用して取付ける場合は、お車のシートベルトは使用しないで下さい。

(1)後向き及び前向き専用ベルト通し穴(A)にラッチシステムをねじれないように通して下さい。

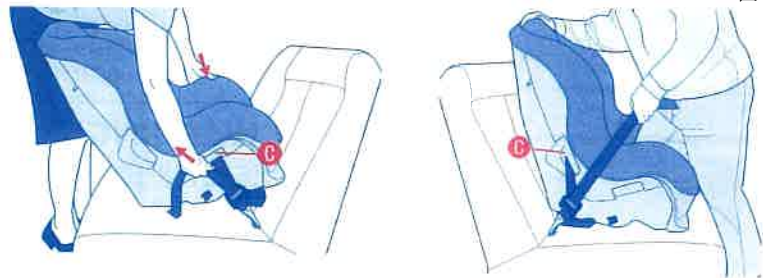


(2)図-16のようにフック(D)をISOFIXバー(E)にしっかり取付けて下さい。取付けた後に、しっかりと取付けられているかベルトを引っ張って確かめて下さい。



※ 1箇所のISOFIXバーに左右のフックを同時に取付けて使用しないで下さい。

(3)ラッチシステムのベルトは出来るだけきつく締めて下さい。膝等を使って、全体重をチャイルドシートにかけながら、ベルトをきつく締めて下さい。チャイルドシートの底部が前や横に4~5cm以上動く場合は、ベルトがゆるすぎます(図-17)。



(4)ベルトを緩める時には、アジャスターの(A)部分を押し、ベルトをスライドさせて下さい(図-18)。

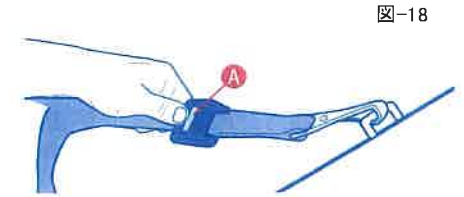


図-18

(5)ラッチシステムをISOFIXバー(D)から外す時は、フックのタブ(B)部分を押しながら外して下さい(図-19)。

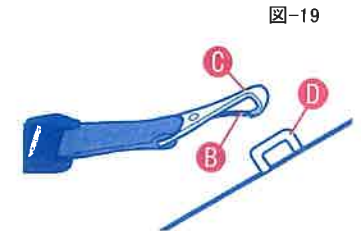


図-19

(6)ラッチシステムを使用しない時は、P3「本製品の各部の名称」を参考に本体裏側にあるラッチシステム用クリップ(ラッチシステム用ベルト収納場所)へ取付けておいてください。

収納の際には完全にラッチシステム用ベルトのフック部やアジャスター部が取付けられていることを確認して、ベルトが自由な状態にならないようにしてください。

ベルトが自由な状態になっていると、衝突等の衝撃でベルトのフック部やアジャスター部及びベルト部がお子様や同乗者に当り大変危険です。

米国基準テザー仕様に関して

米国基準のテザー(TETHER)仕様に関しましては、お乗りのお車に図-20に有るような場所(いずれか一ヶ所)に、取付け専用の金具が装備されている必要があります。専用の取付け金具の装備の有無及び装備場所に関しましては、お車の取扱説明書を御覧頂くか、カーディーラーへお問合せ下さい。



図-20

トップテザーベルトを使用する際には、ベルトにたるみやねじれが無いように取付けて下さい。

※テザー仕様の機構がない車には使用できません。
また、テザー仕様のみでの使用はできません。

トップテザーベルトを使用しない場合は、トップテザークリップ(P3本製品の各部の名称参照)へ取付けておくか、お子様の手の届かない安全な場所に保管して下さい。ベルトが自由な状態になっていると大変危険です。

肩ベルト及び股ベルトの調節

- (1) 肩ベルトは子供の成長に合わせて4通りに調節が出来ます。下段の肩ベルト通し穴は後向きの場合のみに使用します(前向きの幼児には決して使用しないで下さい)。

中段2つの肩ベルト通し穴は後向き又は前向きの場合に使用します。

上段の肩ベルト通し穴は前向きの幼児用です(図-23)。

- (2) 肩ベルトを通す穴の位置を変えるには、まず肩ベルトを緩め、チャイルドシートの裏側にあるスチール製のスプリッタープレート(D)から左右共に取り外します(図-22)。

- (3) 肩ベルトを前面に引抜いてください(図-23)。そして、任意の肩ベルト通し穴に前面から後ろへ通してください。左右共に、同じ様に行ってください。**必ず、左右共に同じ高さの通し穴を通してください。**

※ 肩ベルト通し穴位置を変える際は、必ずベルトにねじれ等が無いように注意して行ってください。

- (4) 肩ベルトは片側より交互にスプリッタープレート(D)につないでください。その際、乳児に使用する場合は、肩ベルト端から2番目の輪(E)を通し、幼児に使用する場合は、肩ベルトの一番端の輪(F)を通してください(図-24)。

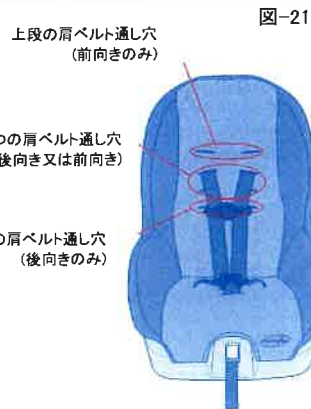


図-21



図-22



図-23

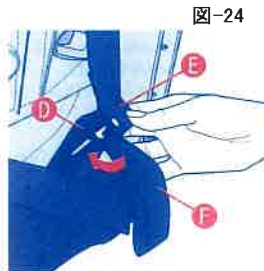


図-24

- (5) 股ベルトを通す穴の位置を変えるには図-25を参考に座面下にあるスチール製のハーネス・アンカー(A)を設置部から取り外し、座面上に引抜いてください。次に、引抜いた方と別の股ベルト通し穴に通してください。

通し終わったら最初に設置してあった通りにハーネス・アンカー(A)が抜けない様に確実に固定してください。最後にベルトにねじれが無いか確認してください。

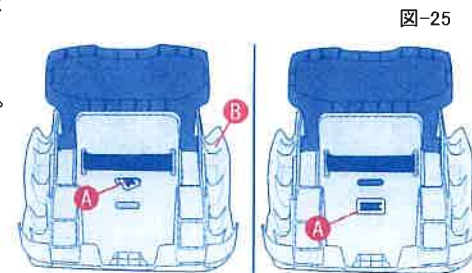


図-25

- (6) 肩ベルトのかけ方は、肩ベルトをお子様の肩にかけ、2つの差し込みバックルを股の間にあるバックルに「カチッ」と音がするまで差し込んで下さい(図-26)。ベルトを引っ張り、差し込みバックルがはまっているかどうか確認して下さい。

差し込みバックルを外すには、チャイルドシートのバックルの赤いボタンを押します。



図-26

- (7) チャイルドシートの肩ベルトをきつくするには、シートの前のストラップ(A)を引いて下さい。チャイルドシートの肩ベルトをゆるめるには、シートの前の肩ベルト調節レバー(B)を押しながら肩ベルト(C)を引いてください(図-27)。

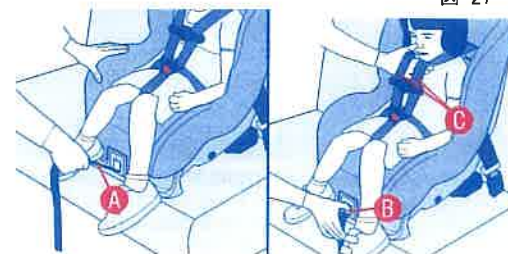


図-27

- (8) 肩ベルト留め(A)は、必ず脇の高さに配置して下さい。肩ベルト留めは肩ベルトが子供の肩から外れるのを防ぎます(図-28)。

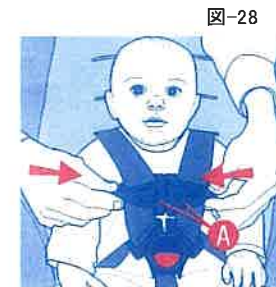


図-28

図-29

- (9) 肩ベルトは子供にぴったり合っていることが必要です。子供と肩ベルトの間に指2本分以上の隙間がないようにしてください(図-29)。肩ベルトがしっかり締まっていることを必ず確認してください。



※ 最後に左右のベルトが交差せず、ねじれが無いことを確認してください。肩ベルト通し穴は必ず左右同じ高さを通してください。

ドリンクホルダーの使用方法

(モデルによっては付属しておりません。)

- (1) 付属のドリンクホルダー(A)をチャイルドシート本体に装着するには、図-30のようにシートカバー部(B)をめくり、ドリンクホルダー固定用穴にホルダーの取付部分を押し込んで、外れないようにしっかりと装着してください。

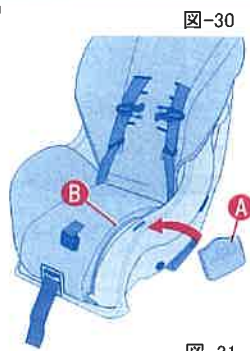


図-30

※ドリンクホルダー固定用穴は左右の同じ場所にあります。ご使用の際、どちらか1箇所をご使用ください。

- (2) ドリンクホルダーを使用するには、まずフタを開き、カップをホールドするためのアームを起こしてください(図-31)。



図-31

※ドリンクホルダーには、熱い飲み物をご遠慮ください。また、揺れてもこぼれないようにフタの付いたカップなどをご使用ください。

※ドリンクホルダーを使用しない場合は、ドリンクホルダーのフタをしっかりと閉じておき、ドリンクホルダー固定用穴からドリンクホルダーを取外してください。ドリンクホルダーを取外した後は、シートカバーをしっかりと元の通りに装着してください。

乳幼児用サポートパッドと枕の使用方法

枕(C)とサポートパッド(D)は図-32のようにチャイルドシートに取付けて下さい。サポートパッドと枕は子供の成長に合わせて取り外しが可能です。
※モデルによりサポートパッド(D)は付属しません。



図-32

後向き 体重2.3~18kgまで、身長48~94cmまでの乳児用。
(参考年齢: 新生児~3才位まで)

後向きで使用する場合には、サポートパッドと枕を共に使用して乳児をサポートします。

前向き 体重10~18kgまで、身長71~102cmまでの幼児用。(参考年齢: 1~4才位まで)

前向きで使用する場合には、必要に応じてサポートパッドと枕を使用して下さい。但し、前向きでかつ最も直立した位置(リクライニングスタンドを図-5の(A)にした時)で使用する場合には、枕を使用しないで下さい。

旅客機での使用について

旅客機での使用及び取付けは、車での使用及び取り付けと同様です。

但し、旅客機での使用については事前に必ず各利用航空会社にご確認下さい。航空会社によっては持ち込めない場合があります。

お手入れ方法

シートカバーを取外すには、フックや取付けゴム及びプラスチック製リベット等(モデルによって異なります)を外してシートカバーを取り外します。強いクリーナーや中性洗剤を原液で使用したり、ガソリン・ベンジン等有機溶剤は使用しないで下さい。本体およびベルトをいためることがありますのでたいへん危険です。

本体を水で丸洗いするのはおやめ下さい。金属部分が錆びて強度が落ちる原因となり危険です。元に戻す際は、肩ベルトを適切にかけ直すよう注意して下さい。「肩ベルトの調節」の項をご覧ください。

※プラスチック製リベットで留めてある機種の場合、シートカバーを取外す際に生地を破らないように注意して取外して下さい。

●洗濯時は下記の項目を守ってください。

| | | | | | |
|--|-----------------------|--|--|--|--------------------|
| | 液温は30℃を限界とし手洗いしてください。 | | 手絞りの場合は弱く、洗濯機脱水の場合は短時間で行ってください。強く絞ると、シワが残ることがあります。 | | 塩素系漂白剤は使用しないでください。 |
| | ドライクリーニングはしないでください。 | | 日陰で平干してください。 | | アイロン掛けはしないでください。 |

注意: シートカバーを洗濯する場合、色落ちや他の衣類に染色することがありますので、他の衣類等と一緒に洗わないで下さい。